令和８年３月６日

保護者の皆様

相模原市立若草小学校
校　長　　藤田　博己

令和７年度　「学校づくりアンケート」の結果について

日頃より、本校の教育活動に、ご理解ご協力いただきありがとうございます。

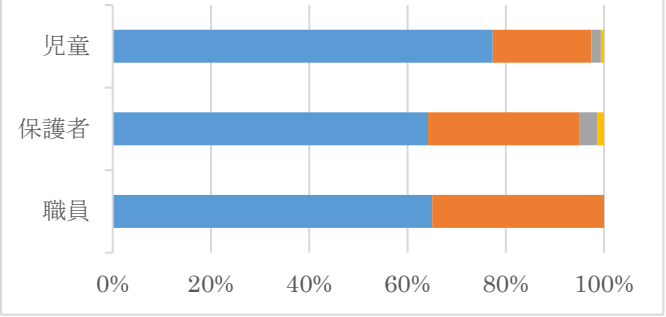
さて、１２月に実施いたしました「学校づくりアンケート」について集計結果をまとめ、学校運営協議委員会でも協議しましたので、ご報告いたします。若草小学校の教育活動への貴重なご意見をたくさん寄せていただいたこと、大変ありがたく思っております。集計結果やいただいたご意見を令和８年度の学校教育活動計画の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

１　アンケート結果

■そう思う ■どちらかと言えばそう思う ■どちらかと言えばそう思わない ■思わない

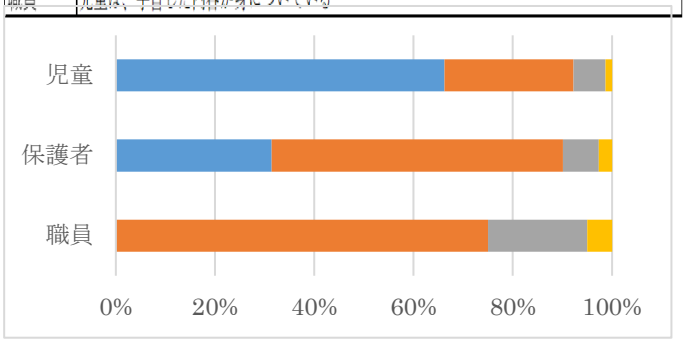
設問①

保護者	お子さんは、学校生活を楽しんでいる
児童	学校は楽しい
職員	児童は、学校生活を楽しんでいる



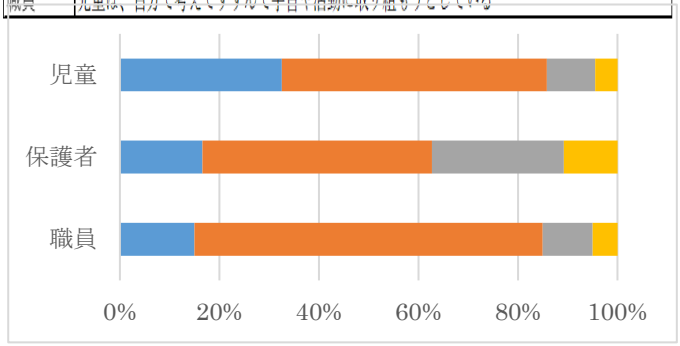
設問②

保護者	お子さんは、学校で学習した内容が身についている
児童	学校の授業はわかりやすい
職員	児童は、学習した内容が身についている



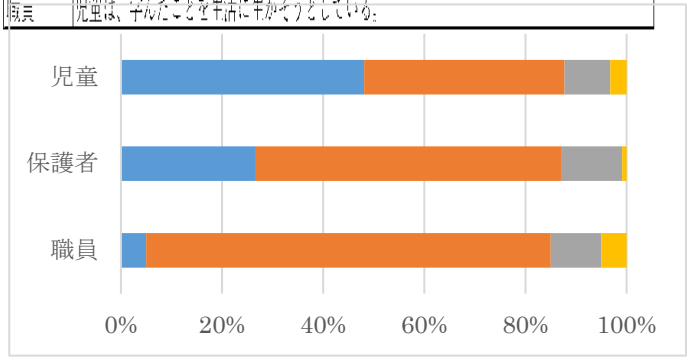
設問③

保護者	お子さんは、家庭で自分から学習に取り組もうとしている
児童	自分で考えて進んで学習したり、活動したりしている
職員	児童は、自分で考えてすすんで学習や活動に取り組もうとしている



設問④

保護者	お子さんは、学んだことを生活に生かそうとしている。
児童	学習したことを自分の生活に役立てている
職員	児童は、学んだことを生活に生かそうとしている。

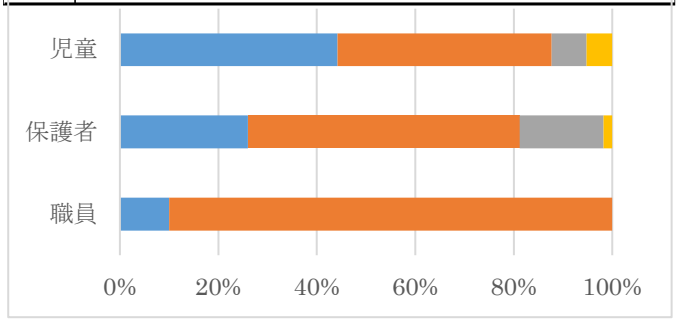


設問①については、今年度も三者ともに「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した方が９割を超えており、ほとんどの児童にとって「学校は楽しいところ」と認識されていると言えます。ですが数名でも負の回答が見られることは大きな課題と捉え、今後も改善を図っていきます。②③④では、職員と児童・保護者の回答結果に大きな差があります。これは、想定する個や対象によっての違いがあるものと考えられます。特に職員は対象児童が多様なためその感覚が強く、比較的に控えめ、厳しめな評価をつけている傾向があるものと捉えています。回答からは、多くの子どもたちは学習内容を身につけ、実生活に生かそうとしていることがうかがえます。③では、子どもたちは自覚として、職員は宿題や提出物から家庭学習にも取り組めているものと捉えているようですが、家庭での様子を実際に見ている保護者は、「思わない」「どちらかと言えば思わない」と回答した割合が昨年までと同様に最も多くなっており、依然、課題があることがわかりました。学校では、引き続き児童が自主的・主体的に学ぶための「見とおし」や「振り返り」を大切にした授業改善を図り、学年の発達段階に応じた系統的な取組を進めてまいります。

■そう思う ■どちらかと言えばそう思う ■どちらかと言えばそう思わない ■思わない

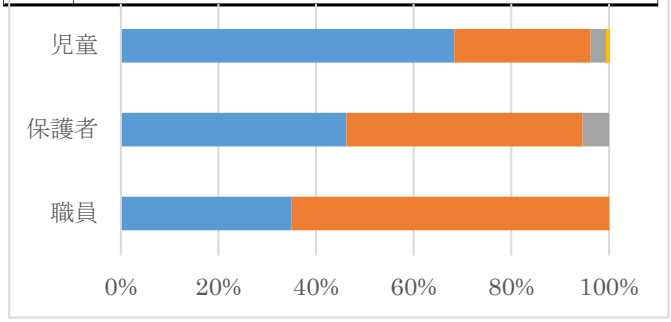
設問⑤

保護者	お子さんは、挨拶や礼儀正しい態度が身についている。
児童	あいさつを進んでしたり、先生に丁寧な言葉で話そうとしたりしている
職員	児童は、挨拶や礼儀正しい態度が身についている。



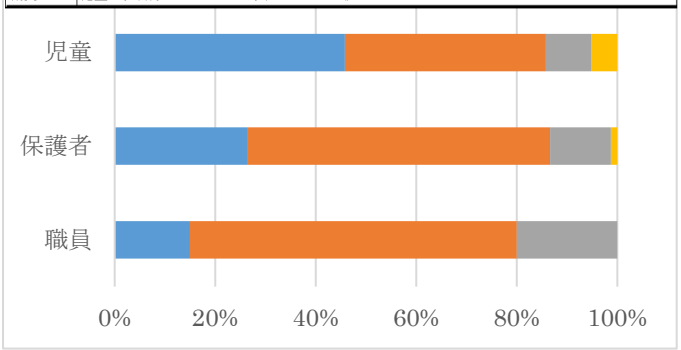
設問⑥

保護者	お子さんは、人を思いやる心や優しい態度が育っている。
児童	友だちのことを思いやったり優しくしたりしている
職員	児童は、人を思いやる心や優しい態度が育っている。



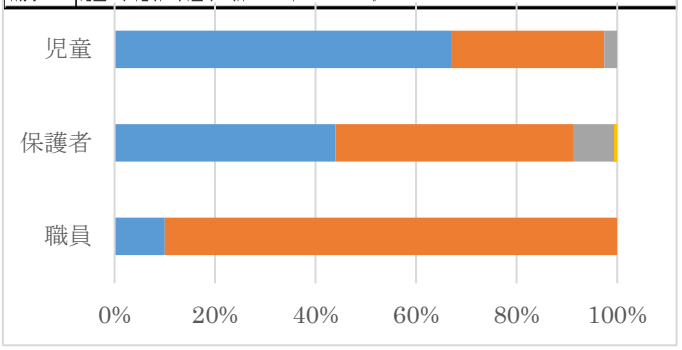
設問⑦

保護者	お子さんは、自分のよさを生かそうとしている。
児童	自分のいいところを学校生活で生かしている
職員	児童は、自分のよさを生かそうとしている。



設問⑧

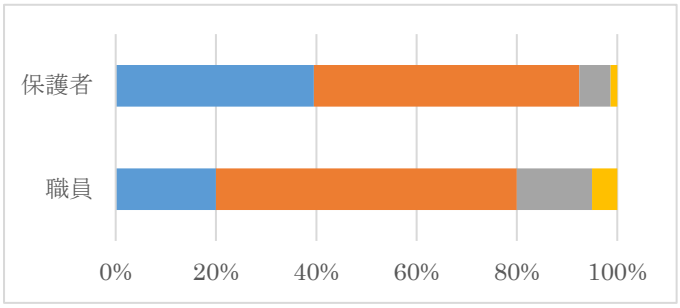
保護者	お子さんは、健康で安全な生活をしようとしている。
児童	健康や安全に気をつけて生活しようとしている
職員	児童は、健康で安全な生活をしようとしている。



挨拶や礼儀・態度について問う設問⑤では、職員の「そう思う」が少ないものの、すべて肯定的な評価であり、朝から元気な挨拶が聞かれる若草小の子どもたちのよさであり、強みであると感じています。近年は大人と子どもたちの関係がフレンドリーになってきていることにより、「礼儀正しく」の捉えが変化していることもありますが、学校運営協議会委員や外部から本校を訪れる関係者等からは、往々にして子どもたちの言葉遣いや態度のよさを褒められることが多くあります。ですが、安全ボランティアの方からは、挨拶をしない子も一定数いるとの声も聞かれますので、運営委員会を中心とした「挨拶運動」の取組などを今後も支えていきたいと思います。また、設問⑥の「思いやり・やさしさ」設問⑧の「健康で安全な生活」は、三者ともに肯定的な回答９割以上となっています。若草小の子どものよい点であると捉えています。設問⑦では、「どちらかと言うとそう思わない」が三者ともやや多い回答となっています。これは「もっとできるはず」といった期待感や可能性に通じることであり、今後も何事にも前向きに自ら自分のよさを生かそうする子どもたちを育んでいきたいと思います。

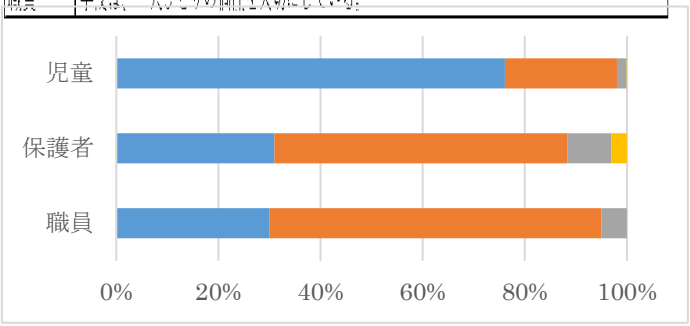
設問⑨

保護者	学校は、体験学習や授業改善を行い、子どもの主体性を育てることに積極的に取り組んでいる
職員	学校は、体験学習や授業改善を行い、子どもの主体性を育てることに積極的に取り組んでいる



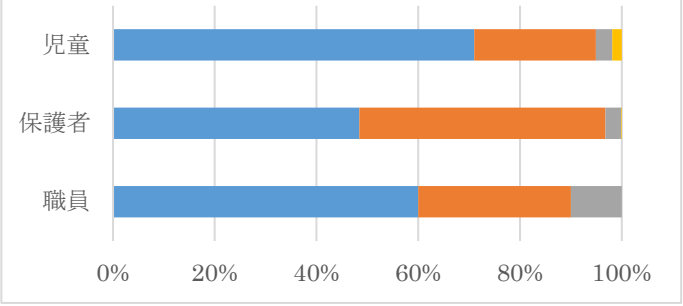
設問⑩

保護者	学校は、一人ひとりの個性を大切にしている。
児童	学校や先生は、一人ひとりを大事にしている
職員	学校は、一人ひとりの個性を大切にしている。



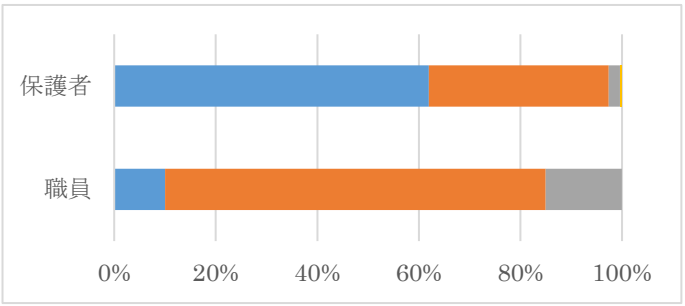
設問⑪

保護者	学校は、子どもが安心して過ごせる場所になるように取り組んでいる
児童	学校や先生は、学校が安心できる場所になるように取り組んでいる
職員	学校は、子どもが安心して過ごせる場所になるように取り組んでいる



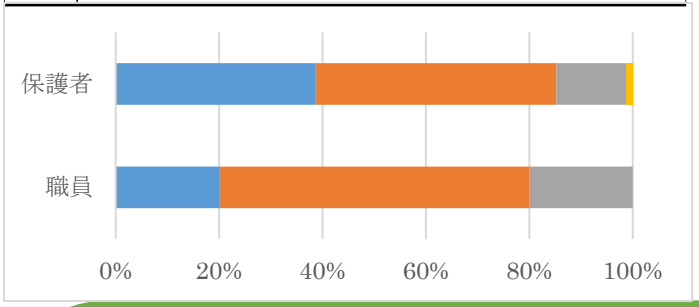
設問⑫

保護者	学校や学年の行事（運動会・遠足・宿泊行事・授業参観・教育面談等）の内容は適切である
職員	学校や学年の行事（運動会・遠足・宿泊行事・授業参観・教育面談等）の内容は適切である



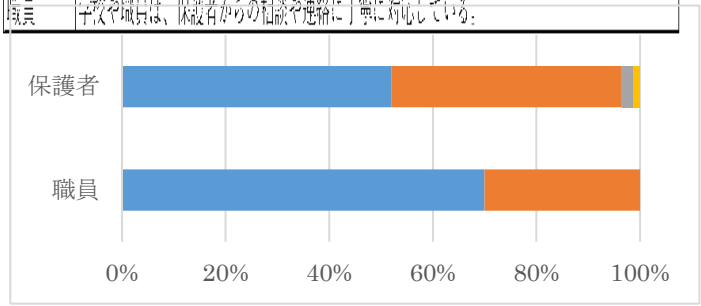
設問⑬

保護者	学校の様子や情報は、各種たよりやホームページ、グループメール等で把握ができる。
職員	学校の様子や情報は、各種たよりやホームページ、グループメール等で把握ができる。



設問⑭

保護者	学校や職員は、保護者からの相談や連絡に丁寧に対応している。
職員	学校や職員は、保護者からの相談や連絡に丁寧に対応している。



ここでの項目は、学校の取組について、主に保護者と職員が回答した結果です。いずれも、保護者の「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は８割以上となっており、概ね達成できたと考えます。特に、設問⑩の「個の尊重」と設問⑪の「安心な学校」については、「そう思う」の回答が児童で約８割で、「どちらかと言えばそう思う」を合わせると９０％を超えました。これまでの地道な取組が子どもたちの安心につながったことと嬉しく思います。設問⑭の「丁寧な対応」については、常に全職員で心がけていることであり、多くの方から高い評価をいただき、ますます励みになります。⑪や⑭など、保護者の方々より職員の方が「そう思う」との回答が多くなっている事項については、職員がより強く意識をもって取り組んでいることが推察されます。しかしこれらの項目は、誰一人もとり残すことなく全児童・保護者に対して行わなければならないことであるので、「思わない」との明確な声があることを真摯に受けとめ、課題を精査し、今後も改善を図って参りたいと思います。

子どもの主体性の育成に関する⑨で「思わない」との回答があることは、学習指導要領や学校教育目標に直結する大きな課題であり、より具体的、抜本的な対策の必要性を感じました。

今年度は創立５０周年を迎えた特別行事が多く、保護者の皆さまからも高評価をいただきましたが、今後も子どもたちのよりよい成長のために、保護者・地域と連携を図りながら、みんなのウェルビーイングの実現をめざした、わくわくする若草小学校の教育を推進してまいります。

保護者の方々から寄せられた「よかったと思うこと」・「よりよくなるための改善点」から一部抜粋・簡略

〇50 周年記念行事がとても新しい発想で子ども達も喜んで参加してるのを見られて良かった。
〇50 周年の行事を子供たちが楽しめるように、色々な企画や準備をしてくださり、当日も温かい雰囲気で、とても盛り上がっていて良かった。
〇先生方お忙しいだろうに、手を止めて同じ目線にしゃがんで子どもの話を聞く姿をよく見かけました。 素敵だなぁと感じている。
〇担任の先生には、何度も相談に乗っていただきました。日々工夫して接してくださっていることが伝わってきます。 子どもが意欲的に取り組め、定着してるように感じている。
〇子どもの意欲を上手く引き出し、授業に取り組めるような工夫がされていて感激した。
〇担任の先生が子どもの様子をとても細やかに見てくださって、子どもが安心して学校に通えている。学校が全体的に子どもに親身になってくれている印象を受ける。
●登校班での問題が増えている。毎日の朝のことなのでみんなが楽しく安全に学校に行けるよう、班長だけでなく多くに関わって貰えると助かる気がする。
●ホームページの更新をもう少し増やしてほしい。
●クラブ活動や水泳の授業が以前に比べ少なすぎるのでは、と感じている。
●年間の予定は配られるが、出来るだけ早く確定して頂きたい。少なくとも予定が確定した時点で早くお知らせが欲しい。何のお知らせもないまま急に日程が変更されていた事があり とても驚き仕事にも影響したことがあった。
●同じ学年でも宿題の量や内容、漢字の進め方、採点の細かさ等に違いがある。と保護者間で話が出ることがあった。先生によってやり方に違いがあるかと思いますが、同じ学年でも合わせなくてもいいのかなと疑問に思うこともあった。
●働いている保護者が多いため実際は難しいかもしれないが、1 日あたり 1 クラスに保護者 1 名のイメージで保護者がクラス運営に参加できるようにするのもよいかと思いました。(お手伝い先生のような形) 様々支援・サポートの先生方はいらっしゃいますが、やはりマンパワー的にクラス担任の先生方のご負担が大きいと思われるため、一定期間に限定して授業のサポートや生活面のサポート要員かつ学校での子供の生活も見られる形もありかと。
●全ての連絡をメールでするのではなく、重要な事はプリントて欲しい。慣れてない者にとってはアプリやメールでの通知は分かりずらい時があるし、メールも他のメールに埋もれてしまっていて正直プリントで貰うほうがありがたい。
●おたよりは基本配信で良いと思う。 配布されたあと、学校のホームページにアップされている学年とアップされていない学年とバラバラなので、配布とホームページへのアップを同じタイミングにしてもらえると出先でも内容を確認できて助かる。

この他にも多くの保護者の方々から、取組のよかったところ、改善を要するご指摘等を多数お寄せいただきました。フルタイムで就労されている保護者の方々が多くなっていることから、行事予定の正確かつ迅速な連絡や、協力を求める活動の精選等には、引き続き意識を高くもっていきたいと思います。

教職員の子どもたちに対する親身な指導、保護者の方々の不安への丁寧な対応など、私たちが常に意識していることが多くの保護者の皆様にも伝わり、安心感にもつながっていると思われるお声も複数いただき、一層の励みになります。一方で、学校というところは、自己表現力や社会性等を培っている最中の子どもたちや、多様な考えや価値感をもつ保護者たちが会する場ですので、日常的に多くのトラブルや要支援・指導事案が発生し、対応に苦慮する実態もあります。特に児童間のトラブルは、それぞれの言い分があったり、正確な事実関係が把握しきれなかったりして、納得を得られるような対応に至らないこともありますが、今後も学校、保護者の双方が、子どもたちのよりよい成長を願って解決を探っていくことで、信頼し合える関係性を築いていきたいと思います。

今年度は、創立 50 周年の特別な一年であったことで、多くの方々から周年行事における子どもたちの生き生きとした姿や、それを支える教職員の活躍を高く評価していただきました。次年度からは「特別」ではない通常の教育課程とはなりますが、特別ではないからこそ、日常の中で子どもたちが主体的に力を発揮し、伸ばしていくことができる学習や活動を工夫していくことで、新たな 50 年の基礎となる、持続可能なわくわくする学校を創っていくことができるものと考えます。

今年度も、様々な角度からお声をいただきました。すぐに改善・改変が必要で実施できるものはその都度変更していきますし、検討が必要なものは時間をかけて協議し、改善を図っていきたいと思います。今後も、お気づきのことがございましたら、いつでもお知らせください。

令和 8 年度も一層のご支援とご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。